

と診断された。症例 2 23 才女, 42 年 9 月手術す。Adenocarcinoma tubulare (II, 1, α), sm と診断された。症例 3 29 才女, 38 年 12 月手術す。症例 3 を含め手術せる若年者胃癌 5 年以上経過症例は 6 例あり, 5 年生存率は 50% であった。

36. 結腸癌を伴った Peutz-Jeghers 症候群と思われる 1 例

斎藤登喜男 (国保成東)

症例は 57 才の女性で, 主訴は上腹部痛, 下血である。口唇, 手掌, 足趾に色素沈着を認めた。注腸造影にて直腸にポリープ状腫瘍, 横行結腸に陰影欠損があり, Peutz-Jeghers 症候群を疑い, 左半結腸切除術および直腸切断術を施行した。ポリープ状腫瘍は腺腫であり, 横行結腸の腫瘍は, 乳頭腺癌であった。家族歴として直腸癌で死亡した兄に色素沈着があり, 家族内発生を疑わせる。

37. 糖尿病を合併した食道静脈瘤に対する経腹的食道粘膜離断術の一治験例

竹内英世, 三好弘文, 渡辺 実 (熊谷病院)
平島 毅 (千大)

今回われわれは, 吐血を主訴とし糖尿病を合併した食道静脈瘤に対して, 千葉大学第二外科で考案した経腹的食道粘膜離断術を施行し, 術後, 心筋硬塞の合併症を起こしたが救命し得たので, 手術々式, 糖尿病コントロールの点について述べた。患者は 46 才女性。2 年前から吐血があり, 食道静脈瘤の診断のもとに手術施行した。術後 1 日目に心筋硬塞を併発したが救命し得, 3 カ月後には平常の生活ができるようになった。

38. 当院における術中胆道精査について

田畑陽一郎 (船橋中央)

術中胆道造影 50 例と術中胆道内視 42 例を精査した。胆管結石と胆管横径の比較では, 9 mm から有石率が増加傾向にあり, 有石例最小値 5 mm, 無石例最大値 17 mm であった。肝内胆管型分けと胆管結石の比較では, I 型 II 型より IV 型 V 型に有石率が高かった。灌流式術中胆道鏡と胆道造影施行群と非施行群との比較で, 術後 10 日目, 肝臓機能検査にて有意の差があるも, 術後 30 日目では, 両群とも正常値内外で, 有意の差が認められなかった。

39. 塩谷病院外科の現況および食道粘膜離断術の 1 例

浜野頼隆, 塩田彰郎, 武藤護彦 (塩谷病院)

昭和 48 年度の外来新患数は, 2263 例で, 月平均 200

例である。男女差なく, 年令別では 20 才代が最高である。疾患別では, 消化器疾患が半数を占めている。手術数は, 48 年度は 222 例で, 前年度までの 1 年間の約 2 倍に増加している。次に食道粘膜離断術の症例は, 34 才の女性で, 主訴は脾腫。肝障害あり。中部食道以下に食道静脈瘤あり。手術は, 脾摘および食道粘膜離断術施行。別出脾は 900 g。肝硬変は乙型であった。

40. 昭和 48 年度中村病院統計および小腸間膜腫瘍の一治験例

奥山和明, 中村 武, 吉川正宏,
志村寿彦 (中村病院)

昭和 48 年度中村病院の手術総数は 559 例で, 胃潰瘍が 22.9% と最も多く, 術式別では胃切除術が 51% と半分を占める。報告の症例は 47 才男性で, 腹部腫瘍の診断のもとに開腹すると, 回盲部より約 2 m の小腸間膜内に小腸とは完全に遊離して存在していたが, 癒着が強いため小腸を 18 cm 合併切除した。腫瘍の大きさは 7×4×3 cm, 重さ 30 g であった。剖面は灰色で, 線維が索状に走っており, 組織学的には小腸間膜線維腫であった。

41. 悪性腫瘍と誤まれた直腸管外性平滑筋腫の 1 例

鈴木盛一, 春日 正, 天沼利時,
深町信一 (深町病院)

69 才男子症例。胃精査で便潜血反応が強陽性に出たため, 直腸診施行。直腸下端に固い腫瘍を発見され, 直腸鏡・注腸造影を行ない, 粘膜下腫瘍の疑いで, 腹会陰式直腸切断術施行。腫瘍は肛門輪より 4 cm の部位で, 4 ~ 5 時の方向にあり, 大きさ 3.5×3.5×3.5 cm。直腸と共通の線維性の被膜でおおわれているが, 直腸と腫瘍とは比較的容易に鈍的に剝離可能。組織では平滑筋腫であった。過去 10 年間の大腸良性腫瘍 64 例を集計し, 考察した。

42. 新生児先天性横隔膜ヘルニアの一治験例

轟 健, 斎藤全彦, 原 壮 (清水厚生)
高橋英世 (千大), 関 幸雄 (川鉄病院)
本島 悌司 (杏林大)

われわれは, 生後 2 日目の左胸腹裂孔ヘルニアの症例を救命し得たので, 若干の文献的考察を加えて報告した。症例は女児。生下時体重 2900 g 分娩直後より, 全身チアノーゼと呼吸促迫を認め, レ線検査にて心縦隔陰影の右方偏位と左胸腔内腸管ガス像を認め, 左横隔膜ヘルニアの診断で緊急手術を施行した。心および腹腔内諸臓器には異常を認めなかった。患側肺は第 4 病日には十